

なかしべつ 議会だより

No.138
令和5年7月



「令和5年度中標津町植樹祭」に参加した緑の少年団なかしべつ冒険クラブの皆さん

主な内容 6月定例会 一般会計補正予算他 (P2)

「一般質問」5名 (P3～5)

道外視察研修実施 (P8～10)

議会モニター会議 (P11)

議会ホームページ



6月定例会で以下の項目について町長および教育長から報告を受けました。

一般行政報告

1. 要望等について
2. 寄贈金品について
3. 作況状況および公共牧場、各牧野の入牧状況について
4. 中標津空港の利用促進について
5. 令和5年度建設工事の発注状況について

教育行政報告

1. 令和5年度町立学校学級編制について
2. 令和5年3月卒業の中学生・高校生の進路状況について
3. 各種大会等の出場結果について

詳しい内容はこちらのホームページに掲載しています。

<http://www.nakashibetsu.jp/gikai/gyouseihoukoku/>



一般質問

全文はこちらのホームページに掲載しています。

<http://www.nakashibetsu.jp/gikai/ippansitumon-ikensyo/>



質問 子宮頸がん予防ワクチンについて

答弁 積極的勧奨の周知に努めます

江口 智子 議員

質問



厚生労働省の知見を踏まえ、昨年4月に積極的勧奨が再開された子宮頸がん予防ワクチンについて、3点お尋ねします。

① 令和4年度の接種率と令和5年の目標。

② 個別通知のわかりやすさと、該当者すべてに周知されているか。

③ キャッチアップ世代（平成9年～18年生まれ）および、自費で接種した方への償還払いの周知方法について。

町民生活部長答弁

① 令和4年度の接種率は全体で10.9%、本年の目標は対象者1,466人に対し延べ280人で19.1%です。
② 今年度の個別通知は中学

再質問

③ 昨年はキャッチアップ世代の全対象者に対し、文書による周知を行い、今後もホームページや広報紙の掲載を予定しています。
④ 1年生と高校1年生で、ワクチンの必要性や接種回数など十分理解できる内容となっています。
⑤ その他の学年全員への周知はしていませんが、町のホームページと広報紙への折込チラシ、保健センターと病院に厚生労働省のリーフレットを設置し周知に努めています。

町長答弁

本年の目標は昨年のほぼ2倍ですので、個別通知をしない小学6年生以上の全児童生徒にお知らせを配布することにも、町のホームページを整理し、わかりやすい情報提供に努めることはできないでしょうか。
国がその効果を認め、積極的勧奨をしているものですので、お知らせの配布と、ホームページの改善を行い周知に努めます。

質問 サンセット方式による事業見直しについて

答弁 町民・関係者への影響を考慮したうえで検討します

高橋 善貞 議員

質問



昨年11月に示された令和5年度予算編成方針に、スクラップアンドビルドおよびサンセット方式の導入を原則とすることが示されています。

「サンセット方式」とは、事業の取り組みの終わりをあらかじめ定めるものです。

全国的にも少子高齢化に人口減・人材減が進み、本町でも、ロングトレイル・330。開陽台マラソン・カラマツの湯などが廃止され、本年度新たに標津岳山開きの実施が見送られました。

予算編成方針にあるように財政的な問題もあります。

が、今まで実施できた事業やイベントがスタッフ不足で継続できないという話をよく耳にします。

人材不足の大変な状況下にあつて、安易にボランティアに頼ることがないよう、行政を運営するうえで再度この状況を認識していただきたいと思います。

過去からの惰性で、事業予算消化のために実施しているような事業や、当初の目的や役割が終わりつつある事業など、事業の終期を決めるサンセット方式をもっと取り入れて、今後の事務事業を再構築していくべきと思いますが、町長の見解をお聞かせください。

町長答弁

人材が不足している現状は私も認識をしています。

町として各事業が本来果たすべき役割を見極め、スクラップアンドビルドやサンセット方式を取り入れながら、効果的・効率的な行政運営を目指してまいります。

質問 断熱・気密に関する専門家資格の研修について

答弁 カーボンニュートラルを目指し職員の資質向上に努めます

松村 康弘 議員

質問



本町が『ゼロカーボンシティ』を宣言して3か月が経ちます。

国連の地球環境部会が成果として求める、建築の熱損失を減少させる試みは、道内でも冷涼な本町の断熱・気密が進むことが地球温暖化防止に成果を上げることになるはずです。

表題に掲げる資格取得に関するテキストを入手し、講習を受け町独自の資格として認証する制度は実現不可能なことでしょうか。

この講習会の参加については、町長以下、政策決定に関わる皆さんの積極参加を期待します。

さらに職員の資格取得にチャレンジするきっかけになるだけでなく、政策決定

の合意形成に力となると考えますが、研究されてはいかがでしょうか。

町長答弁

本町は2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする脱炭素社会を目指し『ゼロカーボンシティ』を宣言しました。

その取り組みのひとつとして、建築物の断熱性能向上は北海道でも力を入れているところであり、省エネ改修等への助成について検討も進められているところです。

各種公共施設の計画や建設に関わる職員は、完成後の効率かつ効果的な維持管理やカーボンニュートラルの理念に基づき、施設整備への意識を高めることも重要と考えます。

今後、職員研修の開催等、積極的に職員に発信してまいります。

他の一般質問

●国道272号線標準津中標津間の高規格化の早期実現に向けた要請について

質問 子どもの発達支援について

答弁 支援機関との連携を強化してまいります

佐久間 ふみ子 議員



質問

本町では、民間の事業所2カ所が放課後等児童デイサービスを開設し、7歳から18歳まで、それぞれ1日10名を受け入れています。未就学児の保護者から、小学校入学に向けて、発達に不安を抱えるお子さんの療育支援と保護者の就労に關して、相談がきています。

1点目、児童館の放課後児童クラブにおいて、どのような対応を行っていますか。

また、必要な情報の共有を実施していますか。

2点目、本町において、児童発達支援センター整備について、どのようにお考えですか。

町長答弁

1点目、保護者が就労等で家庭を不在にし、放課後に児童を養育することができない場合に児童館で受入をしています。

身辺自立ができて集団生活や、児童館まで自力で通うことができることし、受入後は小学校とも連携・情報共有をしています。

特別支援教育の専門家を招き研修会を行い、児童館職員のスキルアップに努めています。

2点目、児童発達支援センターの整備にあたっては、障がい者自立支援協議会や関係機関のご意見等を踏まえ、協議を進めてまいります。

再質問

新たな事業所を含め、次につながる子育て支援施策を講じていくべきではないでしょうか。

町長答弁

民間事業所が参入しやすい環境づくりに取り組んでいます。

質問 防災について

答弁 体験型の情報発信・防災意識の向上に努めます

平山 光生 議員



質問

大規模災害となったときに最も有効な手段は、町民自ら備える防災備蓄と防災組織となつてくると思います。

しかし、避難生活や復興に関する情報が少ないため、災害に危機感を持ちながらも行政頼りとなつてしまつています。

もつと身近に避難所体験できるようなものは考えていますか。

町長答弁

大規模災害が発生したときには、町などの行政機関も被災するので、全ての被災者を迅速に支援することが難しくなります。

今後は町が発信する防災情報も、より具体的に活用

再質問

しやすいものとなるよう努めることも、出前講座や防災訓練等の場においては、可能な限り備蓄品や防災資機材を体験できるよう、その実施内容を工夫してまいります。

さらに役場ロビーなどで展示を予定し、あらゆる場面をこらえ、体験型の情報発信・防災意識の向上に努めてまいります。

実際に段ボールベッドなどの体験をしてみることや、行政が安全確認をどのように実施するのも、展示することが町民の意識を高めることだと考えます。

特に、安全確認は最も重要課題とされている事項であります。

少しでも早く町民の安全確認を行うためには、災害に強い安全確認サービスの導入が必要と考えますがいかがでしょうか。

町長答弁

1丁を活用した先駆的な取り組みもしっかり研究しながら、今後に備えたいと考えています。

意見書

みんなの声を国政に



詳しい内容はホームページに掲載しています。
<http://www.nakashibetsu.jp/gikai/ippansitumon-ikensyo/>

議員から意見書案が発議され、定例会において審議の結果可決し、関係機関に提出されました。

地方財政の充実・強化を求 める意見書

提出者 阿部 隆弘 議員

- 1 社会保障の維持・確保、人への投資も含めた地域活性化、デジタル化、脱炭素化、防災・減災、物価高騰対策、地域公共サービスの再構築など、増大する地方公共団体の財政需要を的確に把握すること、費用を重視し、十分な人件費を確保し、十分な地方一般財源総額の確保を図ること。
- 2 新型コロナウイルス感染症対策について、5類移行後ににおける保健所も含めた医療提供体制等について、自治体での混乱が生じることをないよう、十分な財政措置やより速やかな情報提供などを行うこと。
- 3 今後一層求められる子育て対策、また、地域医療の確保、介護や生活困窮者の自立支援など、急増する社会保障ニーズが自治体の一般行政経費を圧迫することから、地方単独事業分も含め、十分な社会保障経費の拡充を図ること。
- 4 デジタル化における自治体業務システムの標準化については、引き続き「地域デジタル社会推進費」に相当する財源を確保するなど、十分な財源を保障すること。
- 5 「まち・ひと・しごと創生事業費」の1兆円に

ついては、新たに「地方創生推進費」として2023年度も確保され、2023年度も確保可能な地域社会の維持・発展にむけて、より恒久的な財源とする。

6

7

会計年度任用職員制度の運用については、2024年度から可能となる勤勉手当の支給も含め、今後手当の職員処遇改善や雇用確保が求められることから、引き続き所要額の調査を行うなど、その財政需要を十分に満たすこと。

地方交付税の法定率を引き上げるなど、より自律的な地方財政の確立に取り組むこと。

また、人口減少に直面する自治体を支援するため、段階補正を拡充するなど、地方交付税の財源の強化を図ること。

2023年度北海道最低賃金改正等に関する意見書

提出者 佐藤 武志 議員

- 1 「地域間格差にも配慮しながら、できる限り早期に全国加重平均1,000円になることを目指す」ことが堅持された「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）」を十分尊重し、経済の自律的成長の実現に向けて、最低賃金を大幅に引き上げること。
- 2 賃上げの原資確保のため、公正取引を促す「パートナードシップ構築宣言」の宣言企業拡大を進めると同時に、厚生労働省の業務改善助成金など各種助成金の利用を促進し、最低賃金の大幅引き上げを図ること。

3

ゼロカーボン北海道の実現 に資する森林・林業・木材 産業施策の充実・強化を求 める意見書

提出者 高橋 善貞 議員

- 1 二酸化炭素の吸収など森林の多面的機能を持続的に発揮させるため、適切な間伐と伐採後の着実な植林の推進に必要な森林整備事業予算や、防災・減災対策の推進に必要な治山事業予算を十分に確保すること。
- 2 森林資源の循環利用を推進するため、成長が早い形質の優れたクリ・リンラチなどの優良種苗の安定供給、ICT等の活用によるスマート林業の推進、木材生産・流通体制の強化、建築物の木造・木質化や、木質バイオマスエネルギーの利用促進などによる道産木材の需要拡大、森林づくりを担う人材の育成・確保など、に必要な支援を充実・強化すること。

3

特定商取引法の平成28年改 定における5年後見直し規 定に基づく抜本的改正を求 める意見書

提出者 松村 康弘 議員

- 1 訪問販売について、スレッサー等で「事前に契約を締結しない旨の意思を表示した者」に対する勧誘を禁止する制度を導入すること。
- 2 電話勧誘販売について、「電話番号を登録し、関に拒絶できる」登録制度を導入すること。
- 3 SNS等を通じた勧誘を伴うインターネット通販について、クーリング・オフなどの勧誘規制を定め、訪問販売や電話勧誘販売と同レベルの規制を導入すること。
- 4 事業者等に対し、消費者トラブル発生時における通信販売業者・勧誘者に関する情報の開示を義務付けること。
- 5 連鎖販売取引（マルチ取引）について、国による登録・確認等の開業規制を導入すること、また、被害の予防・救済のための規制を強化すること。

森林吸収源対策のさらなる推進に向け、森林の多い市町村において必要となる森林整備がより一層進むよう、森林環境譲与税の譲与基準を見直すこと。

第2回臨時会

4月26日に開催された臨時会において、補正予算および条例の一部改正等について審議し、議決しました。

■専決処分の承認を求めることについて

令和5年度中標津町一般会計補正予算（第1号）

6643万1千円を追加し、総額162億743万1千円となりました。

補正内容：新型コロナワクチン接種事業

■令和5年度中標津町一般会計補正予算（第2号）

2512万3千円を追加し、総額162億3255万4千円となりました。

補正内容：豊栄橋護岸応急対策事業、マイナンバーカード普及促進事業

■条例の一部改正

◇中標津町町税条例の一部を改正する条例制定

◇中標津町都市計画税条例の一部を改正する条例制定

◇中標津町国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定

◇中標津町介護保険条例の一部を改正する条例制定

中標津町植樹祭に参加しました

6月4日中標津町緑ヶ丘森林公園にて開催されました「令和5年度中標津町植樹祭」に後藤議長他議員11名が参加しました。

西村町長と岡嶋根室振興局長あいさつのあと植樹祭記念標柱を設置し、根釧東部森林管理署職員による植樹の実技指導を受け、植樹が始まりました。

参加者約190名の手でカラマツ800本・グイマツ450本の合計1250本が植えられました。

前日の雨の影響が心配されましたが、少し肌寒さはあるものの晴天のもと、参加者の皆さんと心地よい汗を流しました。

また、「赤ちゃん誕生記念植樹」も会場内で専用スペースを設け、同時に開催されました。

この植樹祭に関連して排出されたCO²の一部は、「中標津町緑化管理組合」および「中標津建設業協会」に購入していただいたJクレジットによりカーボン・オフセットされます。



中標津地域森林・林業・林産業活性化議員連盟

副会長 千葉 清正

総務文教常任委員会

当委員会の研究テーマである「防災」および「ふるさと納税」を視察目的の中心として、5月14日から17日に福島県・宮城県を視察してきました。

道外視察

◎福島県双葉町

・2020年に開館した「東日本大震災・原子力災害伝承館」で被災状況の多くのパネルや語り部の話からも、震災と原発事故被害の教訓と、後世に繋ぐ意思を強く感じました。



東日本大震災・原子力災害伝承館

・震災から12年を経たが、約4km先に福島第一原発があり、全町民が避難を余儀なくされ、未だ町の約85%が帰還困難区域になっ

ています。旧役場庁舎や帰宅が解除されていない多くの住宅が震災当時のままで、住宅の前には立入禁止のバリケードが設置された状態であり、目に見えない放射線の怖さを感じました。

・昨年8月に、町の一部が特定復興再生拠点区域として規制が解除され、復興に向けて区画整理が始まっています。

新たなまちづくりとして、駅前には公営住宅・診療所・役場庁舎が完成し、商業を中心とした生活拠点地区、町の外側には産業拠点地区、最先端の技術を取り入れる農業地区の計画もあり、未来を見通したまちづくりに町長や職員、議員のみなさんの気概を感じました。

◎宮城県白石市



白石きぼう学園

・東日本大震災を契機に定められた「大規模災害時における白石市議会議員の行動マニュアル」について、説明を受けました。

・「ふるさと納税」事業は海産物を返礼品の主体とせず、最も寄附件数の多い約9割がアイスクリームのセットであることなど、本町と共通する部分が多く、寄附額を伸ばす秘訣について伺ってきました。

・本町も中間事業者が見直され、担当職員と返礼品事業者とのコミュニケーションを取り、ふるさと納税事業のさらなる推進を期待します。

・不登校児童が増加傾向にある宮城県は、今年4月に全国初の市立小中一貫校の不登校特例校「白石きぼう学園」を開校しました。

・学校らしくない学校をコンセプトに、個々の状況に応じた支援と社会的に自立できる力を育んでいく取組をしています。

◎宮城県仙台市



陸上自衛隊仙台駐屯地

・陸上自衛隊仙台駐屯地では、災害時に自衛隊が支援や救助に向かう際、退職自衛官の「防災監」がいることで的確な情報が入り支援計画も立てやすいとのことでした。本町も具体的に検討を進めてくべきと考えます。

・荒浜小学校では、地域の人々が学校に避難し助かった語り部の話から、平常時の防災訓練の必要性を強く感じました。

(松野 美哉子 議員)

厚生常任委員会

子育て支援の方向性、生ごみを中心としたごみ処理全体の方向性を考えるため、5月15日から20日に岡山県・広島県・福岡県を視察してきました。

道外視察

今回の道外視察は、当町が現在直面している課題解決のため、視察先を選定しました。

足元から導き出される施策を実現している自治体4つを選びましたが、その中でも岡山県奈義町は突出して町の施策に子育て応援を掲げ、合計特殊出生率日本一の「2.95」を記録したため、岸田総理が『異次元の子育て支援政策』の参考とするため視察された町です。

『子どもを産み育てやすい環境をつくり健康で心豊かなたくましい人に育てる』ことは、町民みんなの大切な使命であり奈義町に住めば子育てが安心、奈義町は子育てがしやすいまち、この声が全国に広まることを目指します』という決意表明は議会からの提案により採択された宣言とのことでしたが、自分たちの町が先行事例となって日本の少子化対策を実現していくのだからという気概が感じられました。

全ての自治体で自分たちの発意と行動を積極的に発信しているのを目の当たりにし、本町も、時代の求めに応じ、衆知を集めて挑戦しなければならぬのだと痛感しました。

◎岡山県奈義町

・安心して子どもを任せることができる環境づくり

・保育士が常駐する施設にて、親同士が協力して保育する自主保育も実施しています。

・定住推進(賃貸建設助成等)

・雇用場所の確保

行政が雇用支援を行って、30分から仕事が可能なため短時間勤務を希望する子育て世代に大変喜ばれています。

当町も、シルバー人材センターのような活動を手本に、幅広い世代で活動できるような体制ができれば、多くの課題解決に繋がると感じました。



奈義町役場

◎広島県府中町

・ネウボラふちゅう

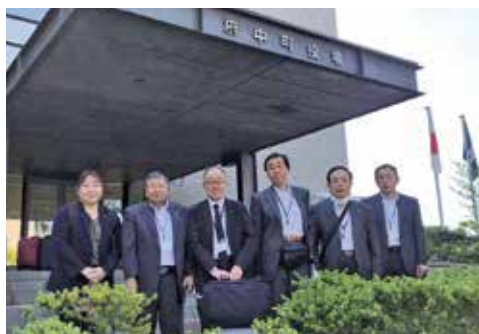
「ネウボラかるて」の作成を自治体、住民と連携して電子化、福祉や学校の情報と統合し、AIによるリスク予測から、予防的な支援を継続的に行う「こどもデータ統合システム」を構築していました。

・プラチナ保育事業

・切れ目のない支援

・町内会参加向上を自治体として強く推進

災害の経験から、共助の必要性が改めて認識され、行政が率先して運動をしています。当町も、災害時に町内会で共助ができる体制づくりが必要だと実感しました。

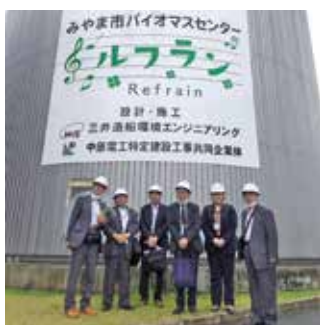


府中町役場

他に広島県東広島市「広島中央エコパーク」、福岡県みやま市「みやま市バイオマスセンタールフラン」を視察しました。



広島中央エコパーク



みやま市バイオマスセンタールフラン

産業建設常任委員会

道外視察

観光資源の開発と新たな産業の創出に向け、
5月8日から12日に長野県・埼玉県を視察してきました。

◎長野県安曇野市

・大王わさび農場

長野県安曇野市にある大王わさび農場のわさびの栽培および観光について視察してきました。

農場にはレストランが2軒、売店が1軒、その他軽食が食べられるようになっています。本町においても観光という交流人口の増加を図るため、地場産品の活用、実際に味わえる食べ物、景色を活かしたインスタスポットなどの設置が集客となることを参考にしていきたいと思います。

◎長野県長野市

・長野県水産試験場

北アルプス山脈の広大な大地から流れる湧水を使い、ニジマスを用いた信州サーモンの養殖について視察してきました。

長野県ではマス類の養殖の研究がされ、より高い付加価値と生産性の向上をめざして信州サーモンの実用化に成功した背景がありました。

本町にはたくさん湧水が

あり、利点ではあるが水温が低いため、マスが大きく育ちにくいこの意見をいただきました。



長野県水産試験場

・長野市ジビエ加工センター
加工センターおよびシカの処理車について視察しました。

処理車については120cm程度の小さな個体が6頭ほど処理、収納することができま

す。シカを駆除から処理するまでの時間が2時間と決められて、品質が保たれていました。ふるさと納税の観点からも安定的な供給をするため、ジビエ加工センターの施設設置について考えていく必要があると感じました。

◎埼玉県長瀨町

・長瀨オートキャンプ場

景色の良いキャンプ場で、場内は区画割りされ、きれいに整備されていました。

夜にはテントからのライトで灯された風景を水管橋の高い位置から見るのが売りのキャンプ場でした。

このキャンプ場には、炊事場に給湯・トイレにウォッシュレットが整備されていて、最近のキャンプを楽しむ人選ばれています。

また、雪中キャンプは人気になってきているとのことでした。



長野市ジビエ加工センター（処理車）

◎埼玉県秩父市

・スプラッシュガーデン秩父オートキャンプ場

温泉施設を兼ね揃えたペット大歓迎のキャンプ場で、ペットと同伴は約4割とペット愛好家のホットスポットとなっています。

その理由は、大きく区切られたドックランとペット専用シャワー室があり、しっかりと遊んだ後にもきれいに楽しめる点にあると思われます。ペットと一緒にアウトドアを楽しむ時代となっていることから、システムとしてペットの同伴について考える必要があると思います。

（宗形 一輝 議員）



長瀨オートキャンプ場

令和5年度 第2回中標津町議会モニター会議

日時：令和5年6月14日(水) 午後1時30分～午後3時00分
場所：中標津町役場 3階 議事堂

第4期目となる議会モニター12名（再任3名・新任9名）が決定し、参加された全モニターへ後藤議長から委嘱状が交付されました。

前回と同様に、会場を議事堂とし、議員席に全モニターが座わり、いつもの議場とは違った雰囲気での会議を進めました。

自己紹介の後、議長より議員のなり手不足解消や議



会の傍聴、ホームページの閲覧など議会への理解が深まるよう一緒に取り組んでいきたい旨のあいさつがあり、その後、モニター制度の概要について説明しました。

現在進行中の議会改革について、議会改革特別委員会の江口委員長より、議会の制度改革と議員の意識改革、議員定数、常任委員会数、議員報酬等についての説明がありました。

議会運営委員会 委員長 高 橋 善 貞



第4期議会モニターの皆さん

進んでいます!! 議会改革

議会議員の報酬に関する要請を町長に提出しました

議員報酬について現状をお伝えします。

委員会設置当初より、報酬に関する種々の報告書や他の議会の実態に学び、議会・委員会単位でオンラインでの研修を受けるなど、その手法について検討を進めてきました。

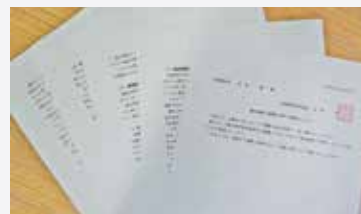
報酬を考える根拠として重視したのは次の3点です。

- 1 常任委員会の所管が1.5倍となり、議員に求められる活動量が増大することから、兼職であっても議員活動に重心を置いた活動を担保できること。
- 2 議員のなり手不足が問題となる中、議会の構成は多様な世代が参画することが好ましく、若い世代の人も議員を目指せる環境を作ること。
- 3 町民の理解と納得を得ることは最も重要であることから、報酬額の根拠は議員一人ひとりが説明責任を果たし得ること。

上記を加味し取りまとめた意見を4月3日、議長より町長へ要請しました。

町長が、「中標津町特別職の報酬等審議会」を設置し審議を諮問した結果、審議会からは議会より要請を受けた同内容で答申を受けたとの回答がありました。

議会改革特別委員会委員長 江 口 智 子



全員協議会「防災力アップ講座」

日 時：6月8日(木) 13時～16時

場 所：中標津町役場 1階 101号会議室



「第1回防災力アップ講座」を全員協議会で開催し、初めに議会事務局を講師に、4月に設置した災害時行動基準を確認後、議員の安否確認と、情報共有のための災害時緊急掲示板用アプリ「オクレンジャー」を活用しての送受信方法を練習しました。

その後、3班に分かれ、2時間にわたり、総務部総務課防災係から避難所運営ゲーム「D o はぐ」の説明を受けながら実践し、結果について意見交換しました。

(松野 美哉子 議員)

総務文教常任委員会

活動レポート



総務部

●ふるさと応援制度推進事業について

令和4年度の寄附件数は7千126件、寄附金額は1億2千110万9千500円に確定したこの報告と、返礼品の7割以上が牛乳・乳製品であり、基幹産業を柱とし

て知名度を上げる必要があるとの説明がありました。

令和5年度は、納税推進業務を効率的かつ有効的に行うことを目的として、公募型プロポーザル方式により受託事業者を選定し、中間事業者の見直しをする報告がありました。

委員

寄附件数1位のシェアが1千800件以上と突出して多いこの分析はしていますか。

担当

自社でもオンラインサイトを保有し全国的な知名度があること、1万円台の価格設定であることなどが要因であると考えています。

●防災について

本年度中に「中標津町地域防災リーダー養成講座」と「現防災リーダーの知識の向上を目的とした「フォローアップ研修」を実施予定との報告がありました。

委員

防災リーダーの育成について、町内会の支援員や中高生への啓発方法はどのように考えていますか。

担当

学校や地域支援員をはじめ、広く周知する方法を検討します。

●町有財産の管理について

本町の発展とともに、整備を進めてきた各種公共施設等の老朽化による更新時期を迎え、大規模な改築・整備事業が続いている状況です。

利活用についての基本的な考え方を定め、広く町民に明らかにするこの報告がありました。

●第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略について

人口減少に対応した重要施策の令和4年度の実績、効果検証の報告を受けました。

今年度は大学3年生・専門学校生に本町の雇用状況を知らせるとともに、アンケートを送り調査をするとのことでした。

教育委員会

●中標津町文化財保存活用計画について

「文化財保存活用地域計画」パブリックコメントの実施に先立ち、5月27日に中標津町文化財保存活用地域計画「フォーラムを開催することが報告されました。

●中標津町における部活動の地域移行について

教員の働き方改革を踏まえた国の部活動改革であり、今後関係団体との協議をしながら進める予定であるこの報告がありました。

委員からは部活動で培われる人格形成やコミュニケーション能力などは大切であり、関係機関で実態を見極めつつ地域移行を進めるよう意見がありました。

委員会開催 4月18日

5月29日

(松野 美哉子 議員)

厚生常任委員会

活動レポート



町立病院

●町立病院の管理運営について

(月別患者数、診療収入の状況(4月末現在))

入院は患者数、診療収入ともに前年度実績を上回り、外来は患者数、診療収入ともに前年実績、予算を上回る状況。(令和4年度病院事業会計決算概要)

令和4年度 収益的収入・支出決定額の内訳

	区 分	決 算 額	計	収 支	消費税処理後の純利益
収 入	入 院 収 益	1,721,555	5,106,444	458,115	452,816
	外 来 収 益	1,512,949			
	一 般 会 計 繰 入 金	957,228			
	そ の 他	914,712			
支 出	給 与 費	2,352,530	4,648,329		
	材 料 費	791,369			
	経 費	1,083,585			
	減 価 償 却 費	201,899			
	支 払 利 息	41,016			
	そ の 他	177,930			

(日用品の貸出)
バスタオル等の入院セットを1日税込297円でレンタル可能。



入院セット (参考)

(面会の緩和)
平日のみ15時から16時の1時間、患者1名に対し1組3名まで(中学生以下は不可)基本デイルームが個室での面会が可能。

町民生活部

●健康づくり推進事業について

(開業医誘致事業)
当事業へ助成金申請された方が、令和6年2月開院予定。

●住民生活・環境衛生事業について
(中標津町地域公共交通計画の策定)

委員 交通センター中心に市内循環線2路線化は可能ですか。

担当 1路線1時間以内をめぐりに策定しています。

委員 ハイヤーの運用で目的地はどこにするのですか。

担当 交通センターとしています。

(畜犬のマイクロチップの取り扱い)
マイクロチップ装着犬は、狂犬病予防法における登録手数料3千円を「徴収しない」扱いで、特例制度へ参加することにしたと報告を受けました。

委員 ブリーダーに義務化ですが罰則はありますか。

担当 業者については、営業停止などの罰則があります。

一般の飼い主は装着済の犬猫を入手した場合、情報変更登録の義務がありますが、罰則はありません。

●施設視察

(別海町広域ごみ処理施設)

委員 生ごみの含有率は。
担当 ゴミ質検査を年4回実施しており、紙類54%、ビニール類21%、生ごみ4%、その他21%で、標津・羅臼は生ごみを堆肥化、別海は再利用しています。

(標津町し尿処理浄化センター)
大きな改修なく約44年経過、3町で下水道施設への処理を検討中。

(リサイクルセンターくるつこ)
中標津・標津・羅臼の3町で排出される資源ごみの分別収集と資源化の推進を実施。

汚れたペットボトル等は資源化できないため、ボトル洗浄等の協力をお願いします。



リサイクルされないペットボトル

委員会開催

4月12日

5月12日

5月26日

(平山 光生 議員)

産業建設常任委員会 活動レポート



経済部

●学校法人岩谷学園について

(岩谷学園ひがし北海道日本語学校)

令和5年度入学者 32名

(合計40名)

(岩谷学園ひがし北海道一丁専門学校)

開設場所

東7条南9丁目6番・

東8条南9丁目1番

建設工事期間

令和5年3月27日～

同年10月15日

工事に伴い町道の一部通行止めを伴う道路占有を承認しました。

●観光振興について

開陽台オープン記念イベントでは、多くの方が来場し、クイズラリーやファットバイクを楽しみ、アンケート回答者へ、なかればつ牛乳の無料配布も行われました。

●空港利用促進について

コロナ禍による外出自粛等の影響により、空港利用状況は全国的にも落ち込んでいましたが、現在は8割程度まで回復しています。

●視察

(北海道立総合研究機構さけ・ます内水面水産試験場道東センター)

当町の特産品として養殖が可能か等の意見交換を行いました。

道外視察・道内視察でも継続して調査します。



水産試験場視察

建設水道部

●除雪事業について

原材料費約1千600万円については、道路の穴埋め等の補修費用と説明を受けました。

●緑ヶ丘森林公園キャンプ場について

5月のキャンプ場利用者数は令和3年度68人、令和4年度144人、令和5年度216人(予約分含む)と増加傾向となっています。

●中標津建設業協会との懇談会

建設業協会は、地域の牛乳消費拡大や福祉活動として、牛乳贈答券の大口購入・子ども食堂への寄贈を行いました。町がゼロカーボンシティ宣言をしたこともあり、調査・研修などを行い、環境へ配慮し、脱炭素社会を目指す三宅会長から挨拶がありました。(要望)

①物価変動に基づく契約変動条項(スライド条項)の適切な運用



建設業協会との懇談会

②資機材の納入遅延に対するフレキシブル(柔軟)な工期対応
資材価格は地域差、時間差でも影響があり、利益を出すのが難しく、非常に厳しい経営状況だと理解しました。(人手不足)

作業員の平均年齢も高く、若い世代が少ない状況です。経験や資格取得等が年単位で必要のため、若い世代の育成が急務、奨学金支援制度の思案などの企業努力を知り、多くの課題があると理解しました。

委員会開催 4月17日

4月25日

5月25日

(安藤 美佳 議員)

令和5年4月から6月までの活動報告

月 日	行 事	出席者	月 日	行 事	出席者
4月3日	全員協議会	全議 員	30日	根室町村議会議長会定期総会（標津町）	正副議長
5日	議会広報特別委員会	欠席 1 名	31日	議会改革特別委員会	欠席 1 名
6日	議会広報特別委員会	全委 員		議会運営委員会	全委 員
	交通安全祈願祭	全議 員		正副委員長会	三常任正副委員長
10日	岩谷学園ひがし北海道日本語学校入学式	全議 員		なかしべつ観光協会定時総会	議長
11日	北海道中標津農業高等学校入学式	議長 1 名	6月2日	道東4地区管内町村議会議長会連絡協議会（札幌市）	議長
12日	厚生常任委員会	全委 員		北海道町村議会議長会理事会（札幌市）	議長
17日	産業建設常任委員会	全委 員	4日	根釧東部森林管理署・中標津町共催植樹祭	議員 12 名出席
18日	総務文教常任委員会	議長・議会運営委員長	6日	乳牛感謝祭	議長・産業建設委員長
20日	正副委員長会	三常任正副委員長	8日	6月定例会議件事前説明	正副議長・正副議運委員長・三常任委員長
	議会モニター会議	全議 員		全員協議会（防災力アップ講座）	全議 員
	議会運営委員会	全委 員	13日	議会広報特別委員会	全委 員
24日	議会役員会	全議 員	14日	議会運営委員会	全委 員
25日	産業建設常任委員会（建設業協会との懇談会）	議長・全委員		議会モニター会議	議長・議会運営委員長
26日	第2回臨時会	欠席 1 名		北海道町村議会議長会定期総会（札幌市）	議長
	全員協議会	欠席 1 名	15日	東京中標津会創立35周年記念ふるさと訪問ツアー交流会	議員 17 名出席
	中標津町議会議員会総会	欠席 1 名	16日	総務文教常任委員会	欠席 1 名
	中標津地域森林・林業・林産業活性化議員連盟総会	欠席 1 名	19日	厚生常任委員会	全委 員
5月8日	議会改革特別委員会	全委 員		産業建設常任委員会	全委 員
～12日	産業建設常任委員会道外視察研修（長野県安曇野市、長野県長野市、埼玉県長瀬町、埼玉県秩父市）	全委 員		議会運営委員会	全委 員
12日	厚生常任委員会視察（別海町・標津町）	全委 員		6月定例会本会議（1日目）	欠席 1 名
14日	総務文教常任委員会道外視察研修（福島県双葉町、宮城県白石市、宮城県仙台市）	欠席 2 名	20日	全員協議会	欠席 1 名
～18日	厚生常任委員会道外視察研修（岡山県奈義町、広島県府中町、広島県東広島市、福岡県みやま市）	全委 員		産業建設常任委員会	全委 員
15日	中標津町商工会通常総代会	議長	21日	総務文教常任委員会	欠席 1 名
23日	全国町村議会議長・副議長研修会（東京都）	正副議長	22日	議会運営委員会	全委 員
25日	産業建設常任委員会	欠席 1 名	23日	6月定例会本会議（2日目）	欠席 1 名
26日	厚生常任委員会	全委 員	26日	中標津空港利用促進期成会総会	議長
	北方領土復帰期成同盟根室地方支部通常総会	全議 員	27日	議会広報特別委員会	全委 員
29日	総務文教常任委員会	全委 員	28日	議会広報特別委員会	全委 員
			30日	根室地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟協議会役員会・総会	高橋林活会長
				議会改革特別委員会	外関係員

東京中標津会創立35周年記念 ふるさと訪問ツアー交流会

令和5年6月16日（金）

昨年開催予定だったツアーがコロナ禍で延期となり、今般、64名が参加し盛大に開催されました。

藤井会長の挨拶で会の歴史を振り返り、その後、牛乳で乾杯し交流会が始まりました。

会員の皆さんと中標津の変容、楽しかった思い出話をたくさん話し、抽選会ではたくさんの「笑顔」と「歓声」が聞こえ、久しぶりの交流会開催を大変嬉しく感じました。

副議長 鈴木克弘



自治功労者表彰

このたび、後藤一男議長が北海道町村議会議長会から自治功労者として表彰されましたので、6月19日、議場において伝達式が行われました。



議会だよりに対するご意見をお寄せ下さい。

〒086-1197 北海道標津郡中標津町丸山2丁目22番地

中標津町役場

TEL (0153) 73-3111

FAX (0153) 73-5333

〈議会事務局にご連絡を〉

・ホームページは <http://www.nakashibetsu.jp>

・メールは gikai@nakashibetsu.jp

議会ホームページ



発行／北海道中標津町議会

編集／議会広報特別委員会